

# 令和4年5月定例会 一般質問（概要）

令和4年6月2日（木）

和田 賢治 議員



（和田賢治議員）

大阪維新の会大阪府議会議員団の 和田賢治 です。

まず初めに、新型コロナウイルスでお亡くなりになられた皆様には弔慰の意を表しますとともに、現在闘病中の皆様におかれましては、一日も早く回復されますようお祈り申し上げます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止に全力で対応に当たっておられる関係者の皆様にも心から感謝申し上げます。

それでは、順次、質問させていただきます。

## 1. 新しいまちづくりのグランドデザイン

### (1) 新しいまちづくりのグランドデザイン

（和田賢治議員）

2012年に策定されたグランドデザイン大阪では、「なんば・天王寺・あべのエリア」を一体化し、エリアの回遊性の向上を図るため、なんばから天王寺をLRT、新型路面電車でつなぐ構想が位置づけられています。私の地元・日本橋の商店街では2014年に有志によって「日本橋にトラムを通してにぎわいを進める会」が立ち上がり、商店街の活性化のためこの構想の実現を目指し、全国各地のトラムの視察・研究

やまちづくりの活動を進めておられるところです。

この構想について、私はグランドデザイン大阪が策定された当初から大いに注目しており、一昨年の9月議会でも一般質問を行ったところであります。

また昨年9月に政調会の場で、トラム構想が位置づけられているグランドデザイン大阪を見直し、「新しいまちづくりのグランドデザイン」を策定していくという報告を受けました。

2050年に向けた大阪全体のまちづくりの方向性を示す「新しいまちづくりのグランドデザイン」の検討が進められ、昨年12月には、知事、大阪市長、堺市長とともに、市長会会長や町村長会会長も出席し、推進本部会議が開催されましたが、それ以降の取組状況と今後の予定について、大阪都市計画局長に伺います。

(大阪都市計画局長)

○ 「新しいまちづくりのグランドデザイン」については、推進本部会議の開催以降、今年3月には有識者懇話会や経済界との意見交換会を実施し、めざすべき都市像やまちづくりの戦略などについて幅広い意見を伺ったところ。

○ これらを踏まえ、現在、まちづくりに係る取組の方向性などについて関係部局等と連携しながら、検討を進めているところであり、次回の推進本部会議において、中間とりまとめ案について議論を深めることとしている。

○ その後、市町村等との意見交換を引き続き行うとともに、議会でご議論をいただきながら、今年末頃を目途に策定していく。

## (2) なんば・天王寺・あべのエリアにおけるまちづくり



(和田賢治議員)

私はこれまでも質問で取り挙げてまいりましたが、現在のグランドデザイン・大阪に位置づけられている「なんば・天王寺・あべのエリア」におけるLRTの実現に向

けた取組については、L R Tの需要創出につながる、にぎわいのあるまちづくりを進めることが重要であると考えています。

パネルをご覧ください。

### パネル① L R Tの走る「にぎわいのあるまち」



このようにL R Tが大通りに走り、活気溢れ、にぎわいのあるまちが望めます。

さて、なんば駅前では昨年 11 月に大阪市と地域の団体が中心となり、なんば高島屋前広場を歩行者空間とするための二回目の社会実験が実施されました。現在は実現に向けた関係者協議が行われ準備工事が実施される予定であり、さらにこれに連なる東西方向の「なんさん通り」についても、車の一方通行と歩道の拡幅が検討されていると聞いています。

### パネル② ひと中心の歩行者空間



私は、なんば高島屋前から始まるこの「ひと中心の歩行者空間」をなんばから南へ堺筋(日本橋)を經由し、天王寺・あべのまで伸ばすことによってこそグランドデザイン大阪にうたう「なんば・天王寺・あべのの一体化」が実現するのではないかと大いに期待するものであります。そしてもちろん、そこには将来なんばから日本橋、天王寺をつなぐLRTが走っていることは言うまでもありません。

今年度、「新しいまちづくりのグランドデザイン」の策定にあたり、この「なんば・天王寺・あべのエリア」では、こうした回遊性とにぎわいのある人中心のまちづくりを検討すべきと考えますが、大阪都市計画局長の所見を伺います。

(大阪都市計画局長)

○ 「なんば・天王寺・あべのエリア」においては、コンパクトなエリアでの賑わいや回遊性を高めながら、それらが連携した、人中心のまちづくりを進めることが重要と考えている。

○ お示しのとおり、なんば駅周辺においては、歩行者空間化をめざし、今後、駅前広場の整備が本格的に進められる予定。さらになんばエリアと天王寺・あべのエリアとの中間にある新今宮駅北側周辺での宿泊施設の整備や、なんばから連続した高架下空間の活用など観光・にぎわいづくりの取組が進められているところ。

○ また、各エリア内の回遊性の向上やエリア間の連携に資する新しい移動手段の取組として、近年、民間主体のシェアサイクルや電動キックボードなどが普及しつつある。

○ これらの状況を踏まえ、新しいまちづくりのグランドデザインの策定にあたっては、関係機関と連携して、人々が回遊し、にぎわいのあるまちづくりが「なんば・天王寺・あべのエリア」において、実現するよう、取組の方向性を検討してまいります。

(和田議員)

昨年9月にグランドデザイン大阪が改定されることを知った際に、当局に対し「地元が強く熱望しているLRTが無くなってしまわないように」とお願い致しました。



ここに一枚のポスターがあります。

### パネル③ ポスター「わがまち日本橋にトラムを通そう！」



ここまで永年にわたり富山、岡山、豊橋、福井など全国各地のトラムのまちづくりを自費で視察し勉強されてきた地元商店街の皆さんの熱い思いがここに詰まっています。

この地元の熱意を汲んで頂き、このなんば・天王寺・あべのをつなぐLRTを大阪府と大阪市が一体となって一日でも早く実現して頂きますよう要望しておきます。

## 2. 「すくすくウォッチ」

### (1) 「すくすくウォッチ」結果の経年変化

(和田賢治議員)

次に、「すくすくウォッチ」について伺います。

「すくすくウォッチ」は、令和3年度より、大阪の子どもたち一人ひとりの力を伸ばすため、府教育庁が始めた取り組みです。府内公立小学校等において国語・算数・理科の教科問題や、「わくわく問題」と称した教科横断型の問題、またアンケートが実施され、今年度も4月に5・6年生が挑戦したと聞いています。

私も先日、問題を解いてみましたが、教科の知識を中心に問う問題だけではなく、問題文や資料を読み取り、自分の考えをどう表現して伝えるか、よく考えて答えなければならない問題が多かったです。まさに、これからの予測不可能な時代を生きていく子どもたちにとって必要な力を育てることのできる問題だと感じた次第です。

「すくすくウォッチ」に取り組んだ後には、児童一人ひとりに対し、「ウォッチシート」と呼ばれる個人結果票が渡されると聞いています。その中には、回答やその結果

だけでなく、児童の良いところや強み、また、これから力を伸ばすためのアドバイスが書かれているとのことですが、実施2年目となり、今年度の6年生は昨年度分の結果と合わせて変化を見取ることができるようになるのではないのでしょうか。大阪府として、一人ひとりの学力の変化を子どもたちに届けていくべきと考えますが、教育長の見解を伺います。

(教育長)

○ 「すくすくウォッチ」では、大阪の子どもたちに論理的な思考力・判断力・表現力を育むとともに、各教科の基礎的・基本的な事項の確実な定着をめざしている。また、アンケートにより、一人ひとりの良さを見出し、自信を持たせることを目的としている。

○ 議員ご指摘のとおり、今年度の6年生は「わくわく問題」については2度目の挑戦となることから、昨年度からの思考力・判断力・表現力の変化を「ウォッチシート」に記載することを考えている。

○ また、国語・算数・理科については、5年生の時の「すくすくウォッチ」と、6年生で受けた全国学力・学習状況調査の結果から経年変化がわかる個人票を作成できるシステムを学校に提供する。

○ これにより、児童の状況の経年での理解も可能となる。気になる変化があれば、その原因を考え必要な指導を早期に行うなど、より児童一人ひとりに着目したきめ細かな指導につなげてまいりたい。

## (2) 「すくすくウォッチ」における一人一台端末の活用

(和田賢治議員)

経年変化の提供については、理解しました。

次に、「すくすくウォッチ」における一人一台端末の活用について質問させていただきます。この間、小学校では、「GIGAスクール構想」のもと、一人一台端末を活用した学びが進んできていることは聞き及んでいます。

そのような中、「すくすくウォッチ」においても一人一台端末を活用することについて、これまでも、わが会派の質問の中で取り上げてきました。特に、アンケートの回答において一人一台端末を使うことについては、昨年5月議会で要望したところです。

現在、「すくすくウォッチ」における一人一台端末の活用に関する検討の状況はどうかでしょうか。教育長に伺います。

(教育長)

○ 児童アンケートについては選択式であり、端末上での回答が簡単にでき、児童の負担も少ないことから、令和5年度実施予定の「すくすくウォッチ」から、一人一台

端末を活用して回答ができるよう、現在、準備を進めているところ。

○ また、コンピュータ端末を使用することで、音声・動画を活用した新たな形式での出題が可能となったり、すべての問題を迅速に採点・集計することができるようになることから、今後さらにその活用について検討してまいります。

(和田賢治議員)

ご答弁ありがとうございます。

すくすくウォッチについては、私も本当にこれは素晴らしい取り組みだと考えておりまして、今後、さらに長期的な視点で、学力の伸びや生活の変化について見取り、その向上につなげてほしいと思います。

ですが、折角の素晴らしい取り組みが5年生、6年生の2年間だけしかしないというのは非常にもったいないなという風にも感じております。せめて3年生、4年生から取り組んでいただくとか、できれば1年生くらいから、そしてまた5年生、6年生が終わった後の中学生になって以降も続けていっていただければと思います。

その中で、特にアンケートの部分です。昨今話題になっておりますヤングケアラーの問題など、家庭内の子ども達が抱える状況や課題も色々と経年で変わってくるかと思しますので、そういった子ども達の変化を見ていくためにも、このアンケートの部分だけでも経年変化をみていくうえで取り組んでいただけたらと思います。

例えば1年に1度ではなく、春休み、夏休み、冬休み等の休み明けごとでも、アンケート調査なら可能だと思います。

子ども達のために是非前向きに取り組んで行っていただきたいなと期待しています。

### **3. 空飛ぶクルマ**

#### **(1) 空飛ぶクルマの実現に向けた実証実験**

(和田賢治議員)

次に、空飛ぶクルマの実現に向けた取り組みについて質問します。

新たな次世代モビリティとして注目され、特にここ大阪では、2025年大阪・関西万博での利活用を視野に、昨年度、様々な実証実験が実施され、たびたびマスコミにも取り上げられるなど話題となりました。このように全国に先駆けた取組が進められていることは嬉しく思いますし、大阪で万博が開催される実感が日増しに高まってまいります。

しかしながら、世にない全く新しいものを作り出すことは大いなるチャレンジであり、その実現は決して平坦な道のりでないと思います。空飛ぶクルマの実現には、多くの課題を克服していかねばならず、その検証の第一歩が実証実験であると考えます。

府では、昨年度、関係事業者の実証実験に対して、補助制度を設けて、支援してきましたが、昨年度の実証実験について、商工労働部長に伺います。

(商工労働部長)

- 空飛ぶクルマの実証実験は、大阪での商用運航を実現していくため、想定される課題やその対応方策などを実地での環境下で検証し、今後の実用化へとつなげるもの。
- 昨年度は、混み合う空域での運航管理システムの安全性、都市部の離発着場確保に向けた屋上ヘリポートの活用可能性、府民の認知度や社会受容性の調査などを実施した。
- 社会受容性調査では、多くの府民が空飛ぶクルマに乗りたいと思いつつも、「安全性の確保がなされることが、運航の大前提」と回答しており、安全を支える基準やルールの確立が、社会受容性を高める上でも重要であることが確認されるなど、有益な取組であったと認識。

(和田賢治議員)

今、商工労働部長の方からのご答弁にありました「都市部の離発着場確保に向けた屋上ヘリポートの活用可能性の調査」とは、このようなイメージだと思われます。

#### パネル④ 都市部の離発着場確保に向けた屋上ヘリポートの活用可能性の調査



## (2) 空飛ぶクルマの安全性確保

(和田賢治議員)

府民の多くが、空飛ぶクルマの利用に当たり「安全性の徹底」を重要視している点について、私自身も全く同感であります。安全が確保されて初めて、安心して空飛ぶクルマが社会にもたらす新たな価値・サービスを府民が存分に享受できる。これは、

あらゆるモビリティに共通する基本的な事項であり、事業サイドでの安全性の追及とあわせて、府民が安全性を認識できる取組みを通じ社会受容性を高めることが必要であると考えます。

今後、空飛ぶクルマの実現をより確かなものにしていくため、安全性の確立、ひいては社会受容性の向上に向けて、府としてどのように取り組まれるのか商工労働部長に伺います。

(商工労働部長)

○ 空飛ぶクルマの安全性確保に向けては、国土交通省を中心に「機体の安全基準」「操縦者の技能証明」「運航安全基準」等の検討が進められており、これらは万博での商用運航にも対応できるよう、2023年度までに整備されると聞く。

○ 府においては、今年度も事業者の実証実験に対して支援を実施し、得られる課題や成果を国と共有することで、国の安全基準の策定に協力すると共に、大阪での実地飛行の可能性を高めていく。

○ こうした取組の下で、飛行の安全性や空飛ぶクルマのある未来社会の姿が府民に浸透するよう、イベントなどの機会も広く活用し、社会受容性の向上を図っていく。

(和田賢治議員)

空飛ぶクルマの社会実装にあたっては、府民の皆さんにその安全性を広く理解してもらい、空飛ぶクルマのある社会像を受け入れてもらうことが重要です。

ちなみに全世界で2040年までに空飛ぶクルマの市場規模は160兆円規模になるとの試算もあり、在阪企業にとっても逃すことのできないビジネスチャンスです。機体の開発などに大阪の中小企業が持つ優れた技術を活かすことで、大阪の産業の活性化につながることを期待しております。また、商工労働部としても積極的な支援をよろしくお願いいたします。

## 4. 大阪・関西万博

### (1) ドバイ万博訪問の総括

(和田賢治議員)

次に、2025年に迫った大阪・関西万博に関してです。

本年3月末、知事は大阪市長とともに、アラブ首長国連邦のドバイで開催された国際博覧会に訪問されました。現地では、各国の出展するパビリオンにおいて大阪・関西万博のPR活動を行い、BIEデーや閉幕式等の公式式典にも参加するなど、精力的に取り組まれたと聞いています。次期万博の開催地の首長として、現地で参加未表明国への参加招請活動や視察等を行われたことは、様々な面で、非常に意義深いものであったと考えております。

実際に、多くの来場者が訪れ、様々な国が参加している万博の現地を訪問すること

で見られたもの、経験されたものについては、大阪・関西万博の開催にあたって、大きな財産となったのではないかと考えます。

そこで改めて、今回、ドバイ万博へ訪問したことの総括について、万博推進局長の見解を伺います。

(万博推進局長)

○ 今回の知事・市長等によるドバイ万博への訪問では、参加招請や大阪・関西万博のPR、さらにはパビリオン等の会場視察などを行った。

○ まず、参加招請については、現地での滞在期間が3日間と限られた時間の中、まだ参加表明を行っていない12カ国を中心に、知事と市長が手分けしながら働きかけを行い、各国から前向きな発言をいただいた。

○ さらに、海外向けのメディアカンファレンスの実施や、BIEデーへの出席のほか、閉幕式の中で、次期開催地の証しとなる旗をドバイから引き継いだ。こうした様子はインターネット中継をはじめ、国内外の多数のメディアに取り上げられるなど、大阪・関西万博のPRにつながった。

○ 会場視察においては、パビリオンの運営やセキュリティなどに関して、スタッフへのヒアリングを行うとともに、会場内の移動手段や多言語対応、熱中症対策、感染症対策、会場アクセスなどについて調査を行った。

○ このような活動を通じて、大阪・関西万博の開催に参考となる技術や情報が数多く得られるなど、今回のドバイ訪問は有意義であったと考えている。

## (2) 大阪・関西万博への意気込み

(和田賢治議員)

今回のドバイ万博への出張は、非常に有意義なものであったことが分かりました。

府・市のホームページに掲載されている「現地レポート」も拝見しましたが、ドバイ万博は、アラブ首長国連邦(UAE)が国威発揚を目的として中東で初めて開催した万博であり、新型コロナの影響で開幕時期が1年延期されたものの、海外からの集客にも取り組み、約2410万人もの来場者が訪問されたとのこと。

このドバイ万博において、日本館は日本の文化等を体感させる展示が好評を博し、BIE(博覧会国際事務局)から展示部門の金賞を受賞されたところです。当時のニュースでも、日本館を訪れた来場者のコメントとして、「ドバイ万博で最もわくわくする展示。日本は常に期待を超えてくる。大阪・関西万博にも必ず行きたい」との発言も報道されています。ドバイ万博が閉幕し、次の大阪・関西万博へ、国内外からの期待が高まりつつあるものと考えています。

このように、今回の知事・市長によるドバイ万博への出張は、多数のメディアにも取り上げられるなど、大阪・関西万博の機運醸成に極めて有効だったと思います。

このドバイ出張で得たものを活かし、3年後の大阪・関西万博をぜひとも成功に導

いて欲しいと考えますが、改めて、知事に大阪・関西万博の成功に向けた意気込みを伺います。

(知事)

○ ドバイ万博では、多くの国々が大阪・関西万博に期待していることを肌で感じた。また、閉幕式でドバイから大阪へと万博の旗を引き継ぎ、次は大阪・関西の番だと改めて実感したところ。

○ いよいよ開催まで残り3年を切った。来年度には入場券の前売り販売も予定されており、全国的に万博への機運をさらに高めていく必要。折しも昨日、万博首長連合において、萩生田大臣や若宮大臣と一緒に万博のPRを呼びかけたところ。

○ 今後とも、大阪・関西万博の成功に向け、国や博覧会協会などと連携しながら、私自身も先頭に立って、ドバイでの経験も参考に様々な取組みを加速させ、大いに万博機運を盛り上げていく。

(和田賢治議員)

新型コロナウイルス感染症の影響による暗い話題が多い中、2025年大阪・関西万博の開催は大阪府内に留まらず、国内外における明るい話題です。世界中から万博の成功に期待が寄せられています。万博は、世界から大阪へ「ヒト、モノ、カネ」を集める一方、大阪から世界へ「優れた企業・人材」が羽ばたく絶好のチャンスでもあります。来春以降には入場券の前売販売も予定されています。我々維新府議団も知事と一緒に、力を併せて万博を盛り上げていきたいと思っております。ともに頑張りましょう。

以上縷々申し上げましたが、これで私の一般質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

